

## 平成30年度 第2回岡山県立図書館協議会

日時：平成31年2月19日（火）14：00～15：40

場所：岡山県立図書館 サークル活動室

- 出席者 ○ 委員：小野委員、貝原委員、伐明委員、工藤委員、土井委員、二部野委員、花房委員、道広委員、宮野委員
- 県立図書館：狩屋館長、片山副館長、森山総括参事（資料情報課長）、清友総括参事（サービス第二課長）、林総括参事（サービス第一課長）、笠原図書館振興課長、竹本総括主幹
- 欠席者 ○ 八束委員

### 1 開会

### 2 開会あいさつ

県立図書館 狩屋館長 挨拶

### 3 協議・報告

#### (1) 平成30年度事業概要

資料1

事務局から説明

#### ○派遣研修について

##### 【委員】

職員が出掛けて行う活動とは、具体的にはどういったものなのか。

##### 【事務局】

例えば、市町村の図書館に出向いて、著作権に関する講習会とか、前年度に出版された児童書の紹介、読み聞かせの仕方といったテーマで要望が多くなっている。

#### ○ティーンズコーナーについて

##### 【委員】

ティーンズコーナーの場所が見にくいのだが、たまには場所を変えてみようとか案はないのか。今日見たらあまり人がいなくて残念に思った。

##### 【事務局】

最初のレイアウトがこのようになっていて、なるべく分かりやすいようにとか、幅広くスペースを取れないかなど工夫はしたが、大幅に変えるのは難しい。

##### 【委員】

生徒を立たせて、どれくらいの人が通りがかりに見るか調査したことがあったが、あまり見ていないようだった。分かりやすい表示ができないか、また、たまには違う場所で展示をしてみたいなという話は出た。

##### 【事務局】

利用者からの御意見、御感想を書いていただけるようにしており、見る人は見ていると感じる。

##### 【委員】

非常に内容が面白い。「リドル・ストーリー」や「時をかける・時をこえる」をテーマにタイムトラベル系のものが展示されていて、展示されているものを見たくなくて、検索したり、どこで売ってるか調べたりするくらい、読んでみたい、素晴らしいなと思った。どれもよく考えられていて、通り一遍のものではないと感じるし、苦労がしのばれる。

##### 【事務局】

各学校で司書が指導してくれている。できるだけ多くの人に見えやすくなるよう、館内のレイアウトも何年かに一度は考えてみたい。

##### 【委員】

最初の頃は案内を出しているだけのようなものだったが、それに比べたらずいぶん充実してきた。

##### 【事務局】

単なる読書感想にとどまらず、企画が入っている。

**【委員】**

一般の人の感想をホームページに掲載してくれるようになって、生徒も先生も喜んでいる。

**○図書館職員等の研修について**

**【委員】**

図書館職員等研修講座の地域開催は、読み聞かせグループも参加できたのか。

**【事務局】**

津山市立図書館の方でボランティアさんにも声をかけてくださり、会場が一杯になるくらいの参加があり好評だった。

**【委員】**

文庫のメンバーのLINEの中に情報があつた。そういった機会があつていいなと思った。今後も地域開催をしてくれるとありがたい。

**○とことん活用講座について**

**【委員】**

県立図書館ととことん活用講座に関して、テーマ設定をよく考えられていると感じた。終活などは関心の高いものはたくさん集まっている。見えない・見えにくくなってきた人への読書サポート入門は、これからの社会でかなりいいところを突いたテーマだと思ったのだが、参加者数はそれほどではない。外部講師を呼んでこの人数だと申し訳ないような気がする。

**【事務局】**

テーマは各部門で検討して決定している。読書サポート入門は、人数が少ないように見えるが、全員にiPadを配付して実習を行ったもので、講師が指導できる人数に絞った関係でこのようになっている。終活は、申込みは多かったが、西日本豪雨の2日後ということで、交通手段のことなどもあつてこのようになった。

**【事務局】**

終了後に今度聞いてみたいテーマについてもアンケートしており、それらも踏まえて実施している。

**○おはなし会、児童サービスについて**

**【委員】**

「“プラネタリウム”で楽しむえほんのじかん」に関して、県立図書館ではないところに出掛けて行って実施したいきさつ、どんな本かといった内容、112人参加という反響が大きかった理由を教えてください。

**【事務局】**

きっかけは、前任の館長が県生涯学習センター所長という関係からであった。プラネタリウムは、小中学生に人気があるが、もう少し下の年代からプラネタリウムに親んでもらう仕掛けとして、本や絵をドームに映して本に親しむイベントができないかとの思いから、先方から打診があつた。当館としても職員を派遣して全面的に協力した。大勢が参加され幼い子供が多かつたようだ。お母さん方、お父さん方にも楽しんでいただけたのではと考えている。こうした裾野を広げる取組は有効だと思う。

**【委員】**

高校生も場所が変わると嬉しいようで、図書委員が図書館から中庭に出掛けて行って、中庭図書館をやってみようという話が出た。県立図書館の裏の芝生広場も使えないか。

**【事務局】**

時々イベントを実施しており、県立図書館ととことん活用講座で使つたことはあつた。

**【委員】**

ヨムヨム巡回展示を初めて実施して、2017年の児童書を中心に、230冊ほどの絵本を借りた。貸出しはできずに見ただけだったが、非常にたくさんの方が来てくれた。当館にあるかを尋ねられて、半分以上はあつたので、宣伝になった。いろいろな本があることをたくさんの方に見ていただいて、なるべくたくさんの方に選書をしてもらうことが多くなつていて、図書館運営協議会の委員にお願いして選書ツアーをやったりしているのだが、一般の利用者には、カタログとか紙面だとなかなか選べないので、巡回展示で見えていただいて、良い本があつたらリクエストしてもらおうという風に使わせてもらったところ、リクエストもあつたし、当館の宣伝にもなつた。6箱分くらいになるので、最近の運送費高騰のためお金のかかる事業だが、なくならないようにしてほしい。

**【事務局】**

児童書の全点収集は、開館以来の特色ある取組だ。地域に巡回して行き、そこで実物を直に見ていただいて、選書の参考にしていただきたい。選書の際、カタログとかタイトルを見ただけではなかなか分からない。選書の質を高めることは図書館の充実につながると言え、実物を直に見ることは大切だ。

事務局から説明

### ○図書資料費について

#### 【委員】

ここ2, 3年、私の文庫でも、司書さんから本を教えてもらうだけではなく、母子ではまっている本を持ち寄り紹介する取組に変えていて、そのため、お母さんが図書館に行く機会が増えている。地域の図書館にない本でも県立にあるかもしれない、県立に聞くと分かるかもしれないということが浸透してきている。なかなか家に本を持たなくなってきたいて、図書館で借りて気に入ったのを買うといったように、経済的にもすぐを買うのではなくなっているという中で、県立に児童書が全て揃っているのは大事だと思う。ここに来ればあるという図書館であってほしい。

#### 【事務局】

本年度からの資料費削減については、館内でもどこを減らすかという議論を行ったが、最終的には、開館当初から看板を掲げている児童書の全点購入は下ろせないということで、雑誌・新聞の削減、類書の精選など、できるだけ利用者に迷惑を掛けないようにと考えたところだ。

#### 【委員】

基金を取り崩しているわけだが、この先のことをどう考えているか。どこの県も同じような悩みを抱えているのか。ふるさと納税は良い取組だと思うが、何かPRはしているのか。

#### 【事務局】

昨今の財政状況の下では基金の積み増しは難しく、財源をどこから捻出するのか、なかなか抜本的解決には至らないところだ。維持できるように知恵を出し合いたい。

#### 【事務局】

本県のように新館の建築費用から図書の整備まで、基金という特定財源で賄ったところばかりではないと思う。ふるさと納税は昨年度予算から措置されたもので、図書に充ててもよいというものだ。ホームページを工夫するなどPRに努めているが、返礼品なしということもあり、予算額には届いていない。

#### 【委員】

先日、日本経済新聞の「リーダーの本棚」のコーナーで伊原木知事が書かれていたので、非常に良いアピールになったと思う。知事の読書好きというのは有名であるが、この図書館のことが一言も触れられていない。また、ふるさと納税のことをアピールすると効果があったのではないかなと思う。

### (3) 岡山県内市町村立図書館の動向について

事務局説明

### ○市町村の動向について

#### 【委員】

新庄村は何も動きがないのか。

#### 【事務局】

新館の建設予定はない。県下で唯一単独の図書館を持たない自治体だ。公民館図書室という形態で、文庫の活動も割と盛んだが、図書館建設まではいかない。児童図書などを援助する団体があったが、一昨年なくなり、非常に苦心されている。

#### 【委員】

建部町図書館は広がったのか。

#### 【事務局】

若干広がった。岡山市もあの地域のにぎわいづくりの中核にしたいとお考えだ。

### ○職員数、資料費について

#### 【委員】

県内の統計では、10年前と比べて資料費、貸出冊数はほとんど変わらない、やや増に対して、職員数は増えている。図書館が増えていることが要因かと思うが、貸出数が増えていないというのはどういうことか。

【事務局】

専任の職員はむしろ減っており、非常勤化が進んでいる。新しい建物が出来ればその分資料費が増えているかと思うが、読書層の人数はそれほど増えていないのかなと思う。県民一人当たりの貸出冊数は目標の7冊に近付きつつあり、一人当たりに割り戻せば、読書数は少しずつ増えている。

【事務局】

例えば、正規職員で40時間のところを20時間の非常勤職員を二人雇っても、二人で表れてくる。社会保険料なども払わなくて済むような短時間勤務が増えてくると、全体では増えるが、実態の勤務時間は増えていないことになる。

【委員】

資料費がほとんど増えていないのに図書館数が増えているということは相当厳しいということか。

【事務局】

県内の資料費の合計は、自治体規模別で見ると本県は全国の中で低い方だ。その中で県民一人当たり貸出冊数全国3位というのは、よく言えば効率がよい。

【委員】

役所でも非正規が増えている。何か制限があるのか。

【事務局】

定数については、交付税などの制約は受ける。各自治体は、職員定数の制約が厳しい中で工夫しているのだと思う。県立は、幸いにして、当局の理解を得て、正規の司書を維持し、レファレンス対応の充実などを進めてきている。

【委員】

少子化で人口が減っているので、財政的にも厳しく、それだけ職員数も減らさないといけない。

【委員】

文部科学省が図書費として交付税に算定するが、市町村に入ってしまうと別のものに使われる。

【委員】

職員数が増えているが、非常勤は生活が不安定だ。少子化の中で必要な職員が確保できるのか。それぞれ生活があるので、違うところに行ってしまう可能性がある。受益者負担という考え方で、図書館を有料にするという案はないのか。

【事務局】

当館の司書も正規と非正規は半々だ。全県下の図書館が非正規化をすると、職員の確保が難しくなる。

【事務局】

有料化は、図書館法上できない。

#### (4) その他

【委員】

県立図書館とことん活用講座「見えない・見えにくくなってきた人への読書サポート入門」はどのような内容だったのか。

【事務局】

専用のアプリをダウンロードしたiPadで、実際に読み上げ機能を使ってみるというものだ。

【委員】

オトングラスというものを本で読んだ。文字を音声に転換してくれる眼鏡で、図書館に広がりつつあるそうだ。

【事務局】

当館では、今のところ導入の予定はない。ボランティアさんに来ていただいて、別室での朗読サービスを行っている。

【事務局】

当館にも、テキストを読み込ませると音声で読み上げる機械はある。また、拡大読書器を使わなくても、iPadにアプリを入れて、文字を拡大する機能をもたせることもできるようになっている。

【委員】

そういった機器を必要とする人がすごい勢いで増えている。便利なものが増えてほしいと思う。

**【事務局】**

近年、文字の大きい大活字本を出版する会社が割に合わないと手を引いてきている。

**【委員】**

その先は電子書籍ということになるか。新聞離れと言われているが、図書館離れという可能性もある。

**【事務局】**

値段が高く、図書館向けが少ない。一般向けは出てきているが、図書館向けは、過去のものも合わせて1万点強くらいしかない。個人で買うと紙の本より安いですが、図書館だと逆に高くなる。

**【委員】**

来館者の年齢層のデータは取っているのか。資料購入にデータを利用するのか。

**【事務局】**

毎年1月に来館者に対してアンケートを行っており、昨年の約500人の結果によると、各年代バランスよく来館されているが、40・60・70代が他と比べると若干多い。

**【事務局】**

年齢層のことは念頭には置くが、それに対応した資料の購入というのはしていない。無記名のアンケートだけで集計するため、また、常日頃来ている人の年齢だとか、貸し出した本の年齢層がどうなっているかといった統計機能はないので、そうしたビッグデータの解析までは行っていない。

**【事務局】**

むしろ来ていない人に来てもらえるような図書館にしなければならない。よく言われるのは子供たちの不読だ。子供たちに本を読んでもらい、若年からの読書層、読書人を育てることを目指して、児童図書の本点購入を続けている。読んでほしい本、利用者が読みたい本のバランスが大事だ。

**【委員】**

どのような要望があるのか、また、図書館側が提供したいものの資料があれば見てみたい。

**【事務局】**

予約図書ランキングを1階の人文カウンターの前に設置しており、傾向的には分かるかと思う。

当館は、原則一冊購入で複本を置かない。できるだけバラエティに富んだ選定を行っている。人気のある本を置くことも確かに必要だが、専門的な資料など、市町村との棲み分けを行っている。

**【委員】**

県立図書館は受験勉強などの自習を認めていないが、市町村は自習をしている学生が多く、年齢層は若い。

**【事務局】**

街のにぎわいづくりのため、段々減っている若者が寄り集う場所としての図書館というコンセプトの下で造られた館もある。旧文化センター時代に自習を認めていたこともあったが、今のように閲覧室が一杯になっている状況の中では、他の利用者からの批判もある。